



■沿革

- 昭和47年10月(1972年) 日本少年野球連盟東京支部に草加栄ドラゴンズとして加盟登録。
- 昭和48年 (1973年) 第3回春季全国大会初出場でベスト4に進出。
第4回全国選手権大会初出場。
- 昭和49年 (1974年) 第4回春季全国大会出場(2回目)、第5回選手権大会出場(2回目)。
- 昭和50年 (1975年) 第5回春季全国大会(3回目)・ベスト4、第6回選手権大会出場(3回目)。
連盟で金属バット使用が認可される。
- 昭和51年 (1976年) 東京支部が分割され、埼玉県支部となる。
本年度より金具のスパイク使用中止となる。
第6回春季全国大会(4回目)・準優勝[草加栄ドラゴンズ]。
第1回関東大会開催される。
- 昭和52年 (1977年) 第7回春季全国大会出場(5回目)、第8回選手権大会(4回目)・ベスト4。
第2回関東大会初出場。
- 昭和53年 (1978年) 草加栄ドラゴンズより草加ユニオンズに名称変更し、完全なクラブチームとして移行。
第8回春季全国大会出場(6回目)、第9回選手権大会出場(5回目)。
第3回関東大会出場(2回目)。
- 昭和54年 (1979年) 今年度より、より充実したものをということで**全草加(オールソウカ)**と改称。
第4回関東大会出場(3回目)。
- 昭和55年 (1980年) 代表に小熊和雄氏(埼玉県支部顧問)就任。
第11回選手権大会出場(6回目)、第5回関東大会出場(4回目)。
- 昭和56年 (1981年) 連盟の規定で早朝と日没の練習が厳禁となる。
第6回関東大会出場(5回目)。
- 昭和57年 (1982年) **第13回選手権大会(7回目)・ベスト4、第7回関東大会(6回目)・準優勝**。
- 昭和58年 (1983年) **第13回春季全国大会(7回目)・準優勝**、第14回選手権大会出場(8回目)。
第8回関東大会出場(6回目)。
- 昭和59年 (1984年) 九州において世界大会開催、全関東選抜メンバーとして4名出場。
第9回関東大会出場(7回目)。
- 昭和60年 (1985年) 11月に草加文化会館に於いて埼玉県支部10周年記念式典開催される。
第16回選手権大会出場(9回目)、**第10回関東大会(10回目)・準優勝**。
- 昭和61年 (1986年) 監督に小林千春氏が就任。
大阪で世界大会開催、全関東選抜メンバー堀田寿也・中村和雄紀君出場。
第16回春季全国大会出場(8回目)、第17回選手権大会出場(10回目)。
第11回関東大会出場(11回目)。
- 昭和62年 (1987年) 中学生の部、投手の連投禁止・地区大会開催規定大幅改正される。
第12回関東大会出場(12回目)。

昭和63年 (1988年)	第19回選手権大会(11回目)・ベスト8、 第13回関東大会(13回目)・準優勝。
平成元年 (1989年)	名古屋で世界大会開催、全関東選抜メンバーとして。 〔榎淵聡(元ヤクルトスワローズ) 第19回春季全国大会出場(9回目)。
平成2年 (1990年)	小熊和雄代表に代わって小山隆男氏が就任。 東京ドームで日本ベースボールサミット開催され全草加3年生9人限定で参加。 第20回春季全国大会(10回目)・準優勝、第15回関東大会(14回目)・準優勝。
平成3年 (1991年)	第21回春季全国大会出場(11回目)、第22回選手権大会出場(12回目)。 第16回関東大会(15回目)・準優勝、第1回全国選抜岐阜大会初出場・ベスト4。
平成4年 (1992年)	岐阜少年レッズ(現:岐阜青山ボーイズ)を全草加に招き交流試合が行われる。 第22回春季全国大会出場(12回目)、第23回選手権大会出場(13回目)。 第17回関東大会(16回目)・優勝。
平成5年 (1993年)	全草加後援会が発足し、三位一体の体制で充実を計る。 第二グラウンドを借用設置(現:越谷レイクタウン)。 第23回春季全国大会出場(13回目)、第24回選手権大会(14回目)・ベスト8。 第18回関東大会出場(17回目)、 第3回全国選抜岐阜大会・優勝。
平成6年 (1994年)	11月に越谷市民球場で初めてのOB戦が行われる。 第24回春季全国大会出場(14回目)、第25回選手権大会出場(15回目)。 第19回関東大会出場(18回目)、 第4回全国選抜岐阜大会・優勝。
平成7年 (1995年)	野球セミナー開催、春日部共栄高校野球部監督本多利治氏をお招きして、講演会開催される。 世界選手権大会では小林監督が関東選抜の指揮を執り準優勝に導いた。 小林千春監督が退任し、桑原敏雄コーチが新監督として就任。 第25回春季全国大会(15回目)・ベスト4、第26回選手権大会出場(16回目)。 第20回関東大会(19回目)・準優勝、第5回全国選抜岐阜大会・優勝。
平成8年 (1996年)	専用グラウンドが「東埼玉道路」計画の為、柿木町中川河川敷に移転。 3月に創立20周年記念式典行われる(於:越谷市・ギャザホール)。 第3回'96ジャイアンツカップ大会初出場、第21回関東大会出場(20回目)。
平成9年 (1997年)	世界選手権大会に薄根良太君が出場。 第27回春季全国大会(16回目)・ベスト8、第28回選手権大会出場(17回目)。 第22回関東大会(21回目)・優勝、第4回'97ジャイアンツカップ大会出場。
平成10年 (1998年)	第23回関東大会出場(22回目)。 桑原敏雄監督が退任し、鈴木浩文コーチが監督に就任。
平成11年 (1999年)	第24回関東大会出場(23回目)。 第9回全国選抜岐阜大会・優勝、第6回'99ジャイアンツカップ大会出場。
平成12年 (2000年)	ボーイズリーグ加盟を認知させるために、チーム名を全草加より 全草加ボーイズと改称。 第31回選手権大会出場(18回目)、第10回全国選抜岐阜大会・ベスト4
平成13年 (2001年)	小山隆男代表が埼玉県支部副支部長就任に伴い、今村親房副代表が代表に就任。 第4回関東ボーイズリーグ大会・優勝。

平成13年 (2001年)	第26回関東大会出場(24回目)、第9回‘2001ジャイアンツカップ大会出場。								
平成14年 (2002年)									
平成15年 (2003年)	自動車排気ガス規制の為、団専用マイクロバス(29名乗り)購入する。 第34回選手権大会出場(19回目)。								
平成16年 (2004年)	第35回選手権大会出場(20回目)、第29回関東大会出場(25回目)。								
平成17年 (2005年)	越谷レイクタウン構想の為、第二専用グラウンド撤去。 8月強風で倒壊したベンチを強固なものへ改良設置。 第30回関東大会出場(26回目)。 埼玉県支部創立30周年大会および記念式典開催。								
平成18年 (2006年)	10月29日より吉川順一副代表の退任に伴い、安部吉洋氏が副代表に就任。 第1回から第16回まで連続して岐阜大会参加し、過去4回優勝。 10月1日より公式試合球が低反発ボールに変更となる。								
平成19年 (2007年)	第37回春季全国大会出場(17回目)。 今年度よりスパイクがポイント式より金具式に変更となる。								
平成20年 (2008年)	2月11日・今村親房代表辞任に伴い、安部吉洋副代表が代表に就任。 リトルシニアリーグ等他リーグとの交流試合が承認される。								
平成21年 (2009年)	5月・現中川のグラウンド一部用地売却により、ハウス等移動される。 9月22日・越谷Kクラブボーイズ(現:越谷ボーイズ)と第1回目の親睦試合実施される。								
平成22年 (2010年)	第35回関東大会出場(27回目)。								
平成23年 (2011年)	第41回春季全国大会出場(18回目) 。[3・11東日本大震災]の為、大会中止。 第14回関東ボーイズリーグ大会・優勝 。 第5回全日本中学野球選手権大会出場(ジャイアンツカップ)。 [シニアリーグ全国優勝の取手シニアと対戦し、3対1で勝利を収める。]								
平成24年 (2012年)	4月より、現グラウンドが国土交通省の買取により、草加市管理管轄となり、 草加シニアチームが第一日曜日・第三土曜日にグラウンド使用となる。 第24回東日本選抜大会・出場。								
平成25年 (2013年)	9月、第16回日高ロータリー杯新人戦、優勝 。 本年より、ボーイズリーグが公益財団法人となり、サンリーグ(北海道) 14チームがボーイズリーグに加盟となる。 公益財団法人となつたことに伴い、チーム名の「全」「クラブ」「カタカナ」等を 削除し、「地域名+ボーイズ」名と改称することとなり、4月1日付で当チームは、 草加ボーイズと改称。 <table border="0" style="margin-left: 40px;"> <tr> <td>(1972年) 草加栄ドラゴンズ</td> <td>(1978年) 草加ユニオンズ</td> </tr> <tr> <td>(1979年) 全草加</td> <td></td> </tr> <tr> <td>(2000年) 全草加ボーイズ</td> <td>愛称:全草加(オールソウカ)</td> </tr> <tr> <td>(2013年) 草加ボーイズ</td> <td>愛称:全草加(オールソウカ)</td> </tr> </table> 3月に、7月1日付けで新グラウンド用地(茨城県坂東市)の契約書取り交わす。 11月30日付けを以て、中川河川敷築堤工事のため撤去となり、草加・柿木 グラウンドより、茨城県坂東市弓田へ移る。 第25回東日本選抜大会・出場。	(1972年) 草加栄ドラゴンズ	(1978年) 草加ユニオンズ	(1979年) 全草加		(2000年) 全草加ボーイズ	愛称:全草加(オールソウカ)	(2013年) 草加ボーイズ	愛称:全草加(オールソウカ)
(1972年) 草加栄ドラゴンズ	(1978年) 草加ユニオンズ								
(1979年) 全草加									
(2000年) 全草加ボーイズ	愛称:全草加(オールソウカ)								
(2013年) 草加ボーイズ	愛称:全草加(オールソウカ)								



平成26年 (2014年)	2月、第3回西武ライオンズカップ大会出場。(初出場) 2月、茨城県坂東市弓田(坂東球場)にて練習等を開始。
---------------	--



(両翼93.4m・中堅120m)



第45回選手権大会出場(10年ぶり21回目)

7月27日(日)、坂東球場落成記念式典が行われる。

8月、2014 世界少年野球大会(アメリカ・ハワイ)監督に鈴木浩文氏になる。

9月新チームより、ユニフォームのロゴを改正(AllsokaよりSokaに)

平成27年 (2015年)

第45回春季全国大会出場(4年ぶり19回目)。

第40回関東大会出場(28回目)ベスト4。

平成28年 (2016年)

2月、埼玉県支部創立40周年記念式典(於:大宮バレスホテル)行われる。

第47回選手権大会出場(2年ぶり22回目)

8月、第5回西武ライオンズカップ大会出場。(2年ぶり2回目)

9月、第19回日高ロータリー杯新人戦、優勝。

10月、第28回東日本選抜大会・出場、初優勝。

■歴代代表

初代 川村富男(昭和47年)

2代 真田孝一(昭和54年)

3代 小熊和雄(昭和56年)

4代 小山隆男(平成 2年)

5代 今村親房(平成13年)

6代 安部吉洋(平成20年)

※昭和54年(1979) 全草加と改称されてからは、
代表は小熊氏、監督は飯森氏が初代となります。

■歴代監督

初代 平賀八郎(昭和47年)

2代 後藤力

3代 中野鉄之助

4代 平賀八郎

5代 相沢俊二

6代 飯森邦男(昭和54年)

7代 八木陽介(昭和56年)

8代 梅田哲司(昭和60年)

9代 小林千春(昭和61年)

10代 桑原敏雄(平成 8年)

11代 鈴木浩文(平成10年)

■副代表

吉澤明治

■相談役

高島秀文

■後援会

会 長 深野和利

副会長 杉浦成己

副会長 細田英紀

■コーチ

高橋悦朗

北林崇

榎本功

宮崎英次

山澤賢勇

境亮一(補佐)